

(別記様式第4号)

普及活動検討委員会評価結果及び意見等に対する対応方向

実施月日：令和6年2月15日(木)

実施場所：宮城県行政庁舎1002会議室

1 委員

所 属	氏 名	所 属	氏 名
公立大学法人宮城大学	川島 滋和	株式会社クボタ	及川 一也
宮城県農業士会	佐藤 敏充	宮城県農業協同組合中央会	橋本 裕介

(敬称略、順不同、欠席者除く)

2 検討内容

	検 討 項 目
(1) 令和5年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動の取組について	①農業経営の効率化に向けたアグリテックの活用 ②集落営農組織の体制強化と経営発展
(2) 令和6年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動の計画について	①現地実証によるアグリテックの体系的な導入支援 ②土地利用型園芸品目の安定生産に役立つ農業気象データ活用

3 委員の評価と県としての対応方向

検討項目	評価値 委員 平均	評価結果 (コメント、評価表の要約)	県としての対応方向
令和5年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動 (実績) ①「農業経営の効率化に向けたアグリテックの活用」	5.0	<ul style="list-style-type: none">・経営体の特徴に応じたアグリテックの長所、短所を洗い出したことは、今後の普及活動に向けた貴重な情報になるだろう。・専門家派遣やアグリテック・セミナーを通じて、民間企業と生産者のつながりを積極的に作っている点も高く評価できる。・アグリテックを導入した生産者同士のつながりの拡大も期待しています。	アグリテックの開発は日進月歩であることから、引き続きそれぞれの技術の特徴と活用例を収集し、普及拡大していきたいと考えております。 また、スマート農業推進ネットワークによる会員同士のつながりをさらに進めて参ります。
		<ul style="list-style-type: none">・経営実態をよく見据えて課題を抽出し、成果品(活用の手引き)につなげて公開し、県内外で広く参照されています。また、通信環境の整備に合わせて、専門家による助言指導の仕組みを作り、アグリテックの活用促進や普及指導員のスキルアップを図るなど、定性的、定量的な目標を全て達成しています。・現地でのさらなる定着に向けては課題も残っていることから、次年度以降、各地において普及定着を図る過程で、一層の深掘りに期待します。	担い手不足や生産者当たりの耕作面積の拡大により、アグリテックの活用に対する関心が高まっております。活用の際の課題解決に向けて、今回の成果を活用しながら、定着を図って参ります。

		<p>アグリテックを取り入れた大規模農業者が増加しているのは良い成果だと思います。より良い経営が実現されるのを期待します。</p>	<p>より良い経営の実現に向けて、専門家派遣などの支援を通してアグリテックの有効活用を進めて参ります。</p>
		<p>アグリテックの活用が必要となる中で、様々な技術・システムが開発されています。そのような中、それぞれ導入費用も大きく嵩むことから、各生産者・法人が各々にあったシステム技術の導入を選択できる指標のようなものを検討することはとても有意義な活動と考えます。今後、トータルの(金銭・労働力等)な費用対効果なども期待します。</p>	<p>アグリテックの技術は多岐にわたるとともに、活用する生産者の経営規模や形態にあわせて目的や効果が異なることから、今後も活用事例について収集し、今後の支援に生かして参ります。</p>
<p>令和5年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動(実績) ②「集落営農組織の体制強化と経営発展」</p>	<p>5.0</p>	<p>集落営農組織の設立に関して、定款の作成や登記等の事務的作業は大きな負担になっている。伴走型支援は有効だと思いますが、ひな形作成やマニュアル化も同時に進めると普及活動の効率性が高まると思います。従事分量配当シミュレーションも経営改善を促していく上でとても良い試みだと高く評価できます。</p>	<p>集落営農組織における話し合いを進める中で、各々の組織の状況にあわせた定款や規約の具体的な作成は、大きな負担となっております。今回作成した法人化支援ガイドブックも活用しながら、効率的に普及活動を展開し、集落営農組織における合意形成がより進むよう支援して参ります。</p>
		<p>集落営農組織の課題解決を後押しする伴走型指導支援モデルを展開し、法人化を推進するなど、定性的、定量的な目標をほぼ達成しています。法人化を足がかりに、実質的な経営体質の強化に向け、各地域普及センターにおいて継続して重点指導を行なうと思いますが、今後の指導活動の進展に大いに期待します。</p>	<p>各集落営農組織においては、合意形成を得て目的に応じた法人化がされておりますので、法人の目的達成と経営安定に向けて引き続き、支援して参ります。</p>
		<p>指導により、各地の集落営農組織が法人化したのは高評価に当たると思います。ただ、大事なものは形式ではなく、より良い農業経営だと思いますのでさらなる指導でフォローしていく必要があると思います。</p>	<p>これまで、法人化の支援とあわせて新規に設立された法人の支援も行っておりまして、引き続き、新たに設立された法人の早期の経営安定化に向け取り組んで参ります。</p>
		<p>集落営農組織の法人化は本県では、今後も重要な課題と思います。今回の事例をもとに普及員のスキルアップが期待されます。法人化後の支援(設立後5年間</p>	<p>法人化及び法人化後の早期経営安定化に向けた支援を今後も継続して行いながら、普及員のスキルアップとともに、他の法人への波及効果を目指して行きます。</p>

		など)についても今後モデルケースがあればと思います。	
令和6年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動 (計画) ①「現地実証によるアグリテックの体系的な導入支援」	4.8	衛星センシングデータから施肥量を推計しようとする野心的かつ挑戦的な活動である。収量コンバインを使い、衛星データの(収量予測)精度を事前に確認しておく必要があると思いました。衛星センシングデータと収量の関係がより明確になれば、普及活動の様々なところで活用できると思います。	アグリテックの技術は、日々新しく出てきております。その精度や効果の確認は、活用の上で必要と考えておりますので、確認の方法も含めて、協力していただくメーカー様と調整しながら検討していきたいと考えております。
		3ヵ年で、述べ13の体系的な技術実証事例を作り、その効果を広く情報発信するものであり、成果目標は十分に高く、実現可能性も高いと考えられます。 各経営体の経営改善目標に寄り添ってアグリテックを体系的に導入し、その中でキーテックの導入効果を幅広い視点から評価することが重要と思われまます。 「人を活かす」「地域を動かす」といった普及活動の特徴を前面に押し出すような取り組みに期待します。	アグリテックの導入目的は、経営体の規模や形態によって様々であり、課題や目的にあわせて活用できる実証事例を作り、人や地域を見据えた普及活動に取り組んで参ります。
		とても良い指導とは思いますが、これにより生産性が上がった分、出口を見つける意識を持たせる必要があると思います。	これまで確認した主な効果は、労働時間の削減により、軽労化・省力化が図られております。今後も、活用によりどのような効果があるかを確認し、確認できた効果を周知し、その活用の普及に取り組んで参ります。
		令和5年度の活動を、より深く検討することに期待いたします。 特に、RTK 基地局の活用は今後、注視する分野であります。	令和5年度の成果を活用し、既存のアグリテック及び新たに開発された技術の実証などさらなる事例の収集に取り組んで参ります。
令和6年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動 (計画) ②「土地利用型園芸品目の安定生産に役立つ農業気象データ活用」	4.3	衛星センシングデータと同様に、農業気象データを活用した普及活動は将来的に欠かせないものになるだろうと思います。品目や目的を土地利用型園芸や防除に絞らずに、農業気象データの活用方法を生産者と一緒に検討するだけでも十分に意義ある活動だと感じました。	農業気象データの活用方法についての情報収集をさらに進め、検討して参ります。

		<p>露地野菜においてデータ駆動型栽培管理を導入する上で、その基本となる気象データの活用手法を探るものであり、幅広い応用が期待できます。できれば実際の防除技術（例えば防除適期の見える化とドローンによる迅速防除による防除回数の削減 等）と組み合わせることで、わかりやすい成果として現場の普及指導の改善につなげることができるのではないのでしょうか。また、成果指標も内容に応じて設定することが望ましいと思われま。</p>	<p>データからの予測と発生状況と実際の防除との関連などにより検証することは、大変有効であると考えられますので、検証方法などについて検討して参ります。</p>
		<p>データ集めは重要だと思えますがそれらをアウトプットして活かすことができないと宝の持ち腐れになると思えます。その辺りを生産者に伝えることがより重要と考えます。</p>	<p>データの活用により、最終的には収量や品質の確保につなげることが重要であると考えております。そのため、今回の取組を行う際には、成果の普及を見据えた計画づくりを行います。</p>
		<p>気象データの活用による防除方法も検討であり、活用できるかどうかも含めたデータの蓄積は、現在の異常気象が多い中で貴重なものと思えます。防除には、総合防除（IPM）の考え方がるので、その1つの検討材料として活用出来ることを期待します。</p>	<p>近年の異常気象により、病害虫の発生状況も変化しておりますので、総合防除（IPM）の考え方も視野に入れて検討して参ります。</p>
<p>その他、本県の農業普及活動に関する、御意見、御要望等</p>		<p>農業普及活動は、国・県を中心とした上意下達型から、農業生産者を中心としたネットワーク型に移行すべきと考えています。普及活動の受益者である農業生産者の意向や要望をより反映できる仕組みがあると良いと感じています。</p>	<p>一部の地区において、若手生産者を対象に勉強会と交流会を開催し、グループ化を図る取組を行っております。今後も、生産者同士の交流を促すとともに、要望等を把握しやすい環境づくりに取り組んで参ります。</p>
		<p>若手普及職員の育成等において、全国農業改良普及支援協会の実証事業や、農機・資材メーカーの先端技術リソース等を活用してみたいかがでしょうか。</p>	<p>若手普及職員の育成方法などを検討する際には、内容に応じて活用を検討して参ります。</p>
		<p>県内農業の発展のためには、各団体の連携が必要と思われまますので、県・市町村の両段階において、連携をお願い致します。</p>	<p>県内農業の維持・発展のためには、関係機関の連携がより効果的と考えておりますので、引き続き連携を図って参ります。</p>